

厚生労働省

令和2年度

慢性疼痛診療システム普及・

人材養成モデル事業

—近畿地区—

# 報告書



滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科

令和 2 年度  
厚生労働省  
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業  
—近畿地区—

# 報 告 書

滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科

# 目 次

1. 代表者挨拶	1
2. 事業実施報告	2
事業内容	
1. 産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業（滋賀医科大学医学部附属病院）	2
2. 開業医とリハビリ療法士の慢性疼痛診療連携事業（田中整形外科）	3
3. 心療内科による慢性疼痛診療連携事業（関西医科大学附属病院）	3
4. 慢性疼痛に対する集学的診療推進事業（篤友会千里山病院）	4
5. 慢性頭痛の診療連携事業（寿会富永病院）	4
6. インターベンション治療の診療連携事業（大阪大学医学部附属病院）	5
7. 歯科・口腔外科の診療連携事業（大阪大学歯学部附属病院）	5
8. 地域医療介護連携の事業（なかつか整形外科リハビリクリニック）	6
今後の課題	6
参考資料	
1. 慢性疼痛診療体制	7
2. 痛み診療コーディネーターの配置	9
3. 研修会の開催	10
4. 人材養成研修の実施について	12
3. 研修会開催報告	13
■主催セミナー	
① 「第1回 開業医・リハビリテーション療法士セミナー」	13
② 「慢性痛集学的診療セミナー」	16
③ 「産業医慢性痛セミナー」	19
④ 「歯科医のためのHeadache Academy ～三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）の診かた～」	24
⑤ 「地域医療介護連携セミナー」	29
⑥ 「歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必要性」	32
⑦ 「第2回 開業医・リハビリテーション療法士セミナー」	37
⑧ 「心と身体の痛みセミナー 『発達障害と痛み—認知特性のある患者の訴えをどう扱うか—』	40
⑨ 「慢性疼痛診療研修会」	43
⑩ 「慢性痛診療連携セミナー “非専門家に知ってほしいインターベンショナル痛み治療”	44
■共催セミナー	
⑪ 「慢性痛に対する認知行動療法 実施者育成研修会」	47
⑫ 「第11回関西痛みの診療研究会」	48
4. ポスター・HP・FBなど	50
5. 各事業の活動まとめ（事業報告会）	52



滋賀医科大学附属病院ペインクリニック科 病院教授

福井 聖



慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業は、各地域における集学的痛みセンターの設立と地域医療機関との医療連携体制のモデルを構築すること、痛み診療の人材を育成すること、診療ノウハウを普及することをコンセプトとして、日本全国を8地域に分けて活動してまいりました。

しかし、本邦では、慢性疼痛診療、集学的痛みセンターに対する診療報酬化、拠点病院化などがなく、慢性疼痛を持つ患者に対して適切な医療を提供することが難しい状態が続いております。このような状況の解決策として、近畿地区でのモデル事業は、痛みを専門とする医師だけではなく、開業医、心療内科医、産業医、歯科医師、リハビリ療法士、心理士、薬剤師などさまざまな医療関係者が有機的に連携して、地域全体でチーム医療を支えていけるような診療連携体制の構築を目指してまいりました。

4年目にあたる令和2年度の慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル近畿地区では、産業界、開業医、心療内科、集学的治療、頭痛診療、インターベンショナル治療、歯科治療の7つの連携事業に、新しく地域医療介護との連携を加え、合計8事業を行うことができました。各事業の核になる先生方の御協力により、長引く痛みで苦しむ患者さんや関係する医療者にとって有用なネットワークを構築し、毎年充実してきております。また、認知行動療法研修開発センター、日本痛み財団、関西痛みの診療研究会との共催セミナーを行いました。次年度も慢性疼痛に関連する学会や研究会、研修会との共催企画を積極的に進めていきたいと考えております。

今年度は、滋賀医科大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、関西医科大学病院、篤友会千里山病院、富永病院頭痛センター、京都府立医科大学附属病院、兵庫医科大学附属病院の7施設が厚生労働省慢性疼痛政策研究事業班として正式に認定されました。さらにいくつかの施設において集学的治療を行う準備が整ってきております。また、地域で慢性疼痛に対してチーム医療を行う開業医との連携体制が整い、近畿地区は、病診連携体制構築のモデル地区になりつつあると自負しております。

本事業では、スムーズに連携が行えるように、慢性疼痛の診療をしていただける開業医の先生、心療内科の先生方のリストアップとマッピングをしてきました。次年度の課題として、慢性痛の診療をしていただける精神科の先生方のリストアップをしていきたいと考えています。また、各施設で多診療科にわたる連携をすること、市民への啓発を目的とした市民公開講座、さらには本事業を多くの医療者に知っていただくような広報活動にも力を入れていきたいと考えております。

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業が、領域を超えた多職種、多診療科、多業種の協力のもと、今後の痛み医療構築のベースとなり、現実の医療体制の中で、よい医療が提供できるよう今後も努力を重ねてまいります。モデル事業の運営に多大なご協力、ご尽力を頂戴している皆様方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

## 2 事業実施報告



### これまでの取り組み

慢性の痛み対策としてH29年度に開始された慢性疼痛診療構築モデル事業は、R2年度から慢性疼痛診療システム普及・モデル人材養成モデル事業（以下モデル事業）と名称を替え、全国8地区にて取り組みが進められている。近畿地区では、H30年度から「産業医」「開業医」「歯科口腔外科」「リハビリテーション療法士」「心理士」など、特定の職種ごとに事業を細分化してそれぞれの領域における課題について共有しセミナーを開催してきた。令和元年度には7事業で合計11回（計35.5時間）のセミナーを開き、計577名の方々の参加を得た。また、モデル事業協力施設間で、積極的にスタッフが相互訪問（8件）し実地研修を推進した。結果的に延べ140例の診療連携につながった。「産業界」「開業医」「歯科領域」「慢性頭痛」「ペインクリニック」「集学的アプローチ」「心理的アプローチ」などさまざまな領域において慢性の痛みに関する適切な情報を共有するとともに、診療連携を強化し人材を育成してきた。

### 令和2年度の新たな取り組み

令和2年度は新型コロナウイルスの流行により、会場でのセミナー開催が困難であった。WEBによるセミナーが中心となり、これまでに比べ発信可能な情報量に制限が生じた一方、今まで距離的な事情や時間の都合で会場に来ることが困難であった医療者の参加が可能となった。結果的に、本モデル事業の一つの課題である「事業の均てん化」を進めることができた。

今年度、新たな取り組みとして「地域医療介護連携」領域の事業を立ち上げた。在宅リハビリテーションや通所リハビリ領域で遭遇する痛みに関する問題を共有し、参加者たちが現在行っている対応法や工夫について情報交換を行った。「開業医」領域では、リハビリテーション療法士を雇用しているクリニックにおいて実施している「慢性痛患者に対するコミュニケーションの取り方」に焦点を絞り、動画を製作して供覧することにより、参加した医療者の診療のスキルアップを図った。「頭痛診療」と「歯科医療」事業では、2つの事業が合同で2度のセミナーを開催した。歯科医師に必要な慢性頭痛の知識、心理的アプローチ、運動療法について学ぶ機会を提供した。関連学会を通じた積極的な広報活動により近畿地区だけではなく全国から多数の歯科医師が参加者した。慢性の痛みに対する認知行動療法研修会と共催で2度にわたり研修会を開催し、実際に認知行動療法の手法や適応判断について研修機会を提供した。

今年度新たに地域医療介護連携事業を立ち上げ、通所施設、在宅、介護保険施設における痛みに関連した問題を抽出し、現場の医療者の工夫や体験を共有し対応法を検討した。痛みへの対処に苦心している現場状況が把握でき、この事業の重要性を確認できたとともに今後の役割について検討していきたい。

## ■事業内容（ ）内は各事業の代表施設

### 1. 産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業（滋賀医大）

#### 【セミナーの開催】

2020年11月21日（土）に産業医慢性痛セミナーを開催した（共催；滋賀県医師会滋賀県産業医会、大阪府保険医協会産業医対策委員会、近畿産業衛生学会職業性筋骨格系障害研究会、後

援；滋賀県産業保健)。感染対策のため、滋賀会場(滋賀医科大学)と大阪会場(大阪府保険医協同組合会館)における対面とオンラインのハイブリッド開催とした。参加者は91名(滋賀会場28、大阪会場48、オンライン15)。内容は、まず、滋賀医科大学附属病院学際的痛み治療センター・理学療法士の久郷真人先生が、同センターで実施されている慢性作業関連性運動器疼痛(以下、ChronicWMSpain)に対する集学的治療について講演し、長期休業からの復職事例も紹介した。次に、同病院麻酔科の中西美保先生が、ChronicWMSpainに対する漢方治療の実際について、具体的な処方例を挙げて講演した。続いて、大阪社会医学研究所所長の中村賢治先生が、作業現場の写真を提示しながら、作業関連性運動器障害予防の基本と復職支援の具体例を解説した。最後に主催者として、滋賀医科大学医学部附属病院・病院教授の福井聖先生が、モデル事業の柱の一つである「産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業」を紹介し、参加者への協力を要請した。終了後のアンケート結果によると、セミナーの感想は、回答者66名中1名を除いて、よい評価が得られた。

### 【診療連携】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により症例紹介数は減少したが、膳所診療所から滋賀医科大学付属病院学際的痛み治療センターへ5事例、野里診療所から千里山病院へ1事例を紹介した。集学的治療が終了した2事例では、いずれも、痛みの軽減、ROMの改善、筋硬結所見の改善などを認め、現在、復職の準備をしている。1例は3月に導入予定で、2事例は、運動器リハビリのみでフォロー中である。依然として、連携医療機関を増やすことが課題である。

## 2. 開業医とリハビリ療法士の慢性疼痛診療連携事業(田中整形)

令和2年度からは、開業医セミナーとリハビリ療法士セミナーを合同開催(開業医・リハビリテーション療法士セミナー)することになった。新型コロナ禍において施設相互訪問が困難な中、本セミナーでは実際の慢性痛患者への対応方法・コミュニケーションについてイメージしやすくするために、従来の講義方式ではなく診療シミュレーション動画を提示ながらのディスカッション形式で行った。シミュレーション動画は開業医施設での慢性痛患者と医療者との診療スタイルの例を示したものである。その結果、慢性痛治療への敷居が高いと感じている参加者に対して、患者へのアプローチのヒントを与えることが出来た。

また、昨年に引き続き、連携施設を対象にポスターを配布し、医療機関の待合室などでの掲示を行うことで、慢性痛に対する理解や適切な対処法の広報に努めた。現在まで本モデル事業においてセミナーを継続的に行うことにより、開業医に関わる幅広い領域での医療者の問題を共有できるとともに、リハビリ療法士や看護師などコメディカルへの教育やスキル向上の緒を掴むことが出来た。

医療の末端を担う開業医は、悩める慢性痛患者の終着駅と言われる。時間の制約のある医師のみならず理学療法士を筆頭としたコメディカル各々が治療の一端を担うことで、地域医療における慢性痛治療を成功に導くことになると思われる。しかし、手間のかかる慢性痛治療を実施するに値する診療報酬の扱いなど、医療制度上の問題については従前通り課題の残るところである。

## 3. 心療内科による慢性疼痛診療連携事業(関西医大)

【セミナーの開催】今年度は二つのセミナーを開催した。一つは第11回関西痛みの診療研究会で、三つの症例検討会と、「がん患者の非がん疼痛診療における注意点～心療内科医の視点から～」(近畿大学心療内科酒井清裕先生)と題した講演会をオンラインで開催した。もう一つ

は心と体の痛みセミナーで、「発達障害と痛み - 認知特性のある患者の訴えをどう扱うか-」をテーマに二つの一般演題と「発達障害を背景に持つ慢性疼痛患者の治療ポイント」(まちだクリニック町田英世先生)をやはりオンラインで開催した。

【診療連携】他のモデル事業連携施設に3名の患者を紹介し、6例の患者の紹介を受けた。いずれも集学的な病態評価、診療が必要な患者であり、多彩な専門分野を持つ施設が参加しているモデル事業ならではの連携と考えている。また、滋賀医科大学病院で行われている学際的痛みカンファレンスにも月1回オンラインで参加し、心療内科の観点から意見を交わした。

【地域連携】関西医科大学附属病院に痛みセンターができたことにより、地域医療機関から集学的あるいは心療内科的治療を要する患者のアクセスが容易になった。2月1日時点で痛みセンター心療内科部門へは50名の患者紹介があり、うち地域からの紹介は32名と64%を占めていた。16名は心療内科以外の部門と併診となっており、集学的治療の基礎ができつつあると考えている。また3月には地域の痛み診療に携わる医師、薬剤師を対象とした独自のWebセミナーを開催する予定にしている。

#### 4. 慢性疼痛に対する集学的診療推進事業 (千里山病院)

慢性疼痛を有する患者は、痛みの原因や影響が身体面のみならず、心理面、社会面と多岐にわたるため、治療内容も、これらの要素を踏まえた、多分野・多職種による治療介入をする集学的治療が望ましい。

そのため、私たちは、2018、19年と豊中市にて市民公開講座を開催し集学的診療を一般市民に広報してきた。一方で、モデル事業が主催している各種セミナーで「集学的診療の実際」を講演し医療職に周知を図ってきた(2019年度5回)。2020年3月には、第1回集学的診療セミナーを和歌山県にて開催予定であったが、コロナ禍のため、10月に延期となった。

2020年10月17日 和歌山県立医科大学にてハイブリッド開催した。参加者は会場23名、オンライン34名、医師、歯科医師をはじめ療法士、看護師、薬剤師など多職種であり、質疑応答も活発だった。和歌山県内には集学的診療を提供している病院が少ないという現状があるため、このセミナーをきっかけに、医療連携により、集学的診療が治療の選択肢となることを期待する。

今年度までの活動を振り返り、次の3点を課題としてあげる。

- すでに集学的診療を行っている医療機関のレベルアップ
- 集学的診療を提供する医療連携のさらなる充実
- 市民への集学的診療の啓発

来年度以降、セミナー開催にあたり目標として検討していきたい。

#### 5. 慢性頭痛の診療連携事業 (富永病院)

富永病院・頭痛センターは集学的痛みセンター(B)の承認を受け、年間約4000例の頭痛患者を診療している。慢性難治性頭痛の症例を大阪府下はじめ関西全域から広く受け入れ、外来および入院で診療している。関西医大心療内科より毎週火曜日に公認心理師の派遣を受け、入院・外来の慢性難治性頭痛患者に対して心理療法の介入を実践した。患者背景の聴取を目的とするインタビュー(予診)面接、痛みにつまわる心理教育、心理検査(TEG-II等)、継続的なカウンセリングを実施した。介入した症例は入院/外来合わせて34例(男:女=12:22、平均37歳)で、慢性片頭痛(24%)、前兆のない片頭痛(18%)、新規発症持続性連日性頭痛(9%)、薬剤の使用過多による頭痛・起立性調節障害(6%)などであった。18症例で複数回面接によ

り、痛みの緩和、薬物以外の対処行動の獲得、対人交流の増進、ストレスへの気づきやコーピング獲得などの変化が認められた。成果の一部は第48回日本頭痛学会総会（2021年11月7～8日、筑波）で発表した。大阪大学、石垣尚一教授との共同企画で、2020年12月6日に「歯科医のためのHeadacheAcademy」として、三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）の診かたについてオンラインセミナーを開催した。歯科医師を中心に124名の聴講があった。講演テーマは「TACsの病態と分類」（今井昇先生、静岡赤十字病院）、主要なTACsである群発頭痛について、「臨床像と診断」（西郷和真先生、近畿大学）、「治療」（前田倫先生、西宮市立中央病院）、群発頭痛以外のTACsである「発作性片側頭痛と持続性片側頭痛」（石崎公郁子先生、偕行会リハビリテーション病院）、「SUNHA」（菊井祥二先生、富永病院脳神経内科）、症例提示として「群発頭痛」（杉山華子先生、富永病院）、「持続性片側頭痛」（石崎公郁子先生）、「口腔内灼熱症候群」（石垣尚一先生、大阪大学）をラインアップした。いずれも歯科疾患との鑑別が重要な疾患であり、聴講者からのアンケートも好評であった。今後の歯科口腔領域と頭痛領域の連携の発展に繋がるセミナーを開催できた。

## 6. インターベンション治療の診療連携事業（大阪大学（医））

慢性疼痛では、生物心理社会モデルに基づいた患者評価のもとに治療方針をたてることが重要で、適切な評価をした上でインターベンショナル治療を行うと痛みが軽減・緩和され患者の生活の質（QOL）が改善されることが多い。また、インターベンショナル治療は、痛みが緩和することでリハビリテーション、運動療法が行いやすくなり、多職種によるチーム医療が行いやすくなるメリットがある。しかし、インターベンショナル治療は専門家以外の医療従事者にその内容と適応が十分に理解されているとはいえず、効果的な診療連携を推進するために非専門家向けの啓蒙が重要課題である。

昨年度に開催したインターベンショナル痛み治療セミナーでは、麻酔科ペインクリニック医に加えて整形外科、内科の医師、理学療法士、看護師の方々に適応・手技などについて紹介・意見交換を行い、参加者から理解が深まったと大きな反響があったが、非専門家向けのセミナーであることがわかりにくいとの指摘があった。今年度は、引き続き非専門家向けのセミナーを開催してさらに啓蒙を進めていく方針とし、「非専門家に知ってほしいインターベンショナル痛み治療セミナー」を企画した（2021年2月27日（土）に開催予定）。コロナ禍の状況を鑑み、より多くの医療従事者に参加していただけるよう現地とオンラインのハイブリッド開催で行うこととし、セミナー名や内容も非専門家への理解を深めることにより焦点を当てたものとした。

## 7. 歯科・口腔外科の診療連携事業（大阪大学（歯））

歯科・口腔外科領域においても、筋・筋膜性疼痛、神経障害性疼痛、舌痛症、非定型歯痛など、慢性痛への対応が必要な症例は少なくない。大阪大学歯学部附属病院では、このような症例の紹介を受け診療にあたっている。その際、口腔顔面領域に疼痛が発現する頭痛に関する知識や、認知行動療法など精神心理学的な対応が必要となる。このためには歯科を含めた集学的診療体系の構築が不可欠であり、令和2年度は以下の活動を行なった。

まず、2020年12月6日に、「歯科医のためのHeadacheAcademy～三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）の診かた～」をテーマとしたセミナーを開催した。本セミナーでは約130名の参加者を集め、歯科医師にとって必要な頭痛の知識について、8名の講師による講演がWeb開催形式で行なわれた。

次に、2021年2月7日に、「歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必



要性」をテーマとしたセミナーを開催した。本セミナーも、約120名の参加者を集め、3名の講師から歯科特有と思われる症例を呈示し、2名の講師から集学的立場からの診療介入、生物心理社会的診療介入について講演が行われたのち、総合討論や質疑応答を行ない、歯科口腔外科領域における慢性痛に対する集学的治療の意義について啓発した。

今後も、このような活動を通じて、歯科を含む慢性疼痛診療システムを普及させ、歯科・口腔外科領域における人材養成を継続していく必要があることの重要性が確認された。また、慢性頭痛の診療連携事業と合同開催のセミナーは、定期的に開催を希望する参加者が多かったため、次年度以降も連携して広報、啓発を進めていきたい。

## 8. 地域医療介護連携の事業（なかつか整形）

本邦の要介護要支援認定者数は年々増加して平成30年度の厚生労働省による介護事業状況報告書では658万人と報告され、保険給付費用額は10兆4319円に達している。要介護要支援になった主な原因は、運動器疾患・認知症・脳血管障害・高齢による衰弱の順に多い。運動器疾患が原因であった要介護要支援認定者の多くは慢性疼痛を有しており、慢性疼痛を起点としてロコモティブシンドローム・フレイル・サルコペニアを合併していることが指摘されている。「高齢者の痛み」に関する認識の通念として、「痛みは加齢におけるごく普通のことである。」「患者が痛みを報告しないときには痛みは存在しない。」など誤った理解がなされている。高齢者に関わる全ての人々は、高齢者の特徴と慢性疼痛の基礎的な理解を持ち、生活者としての視点を視野に入れ、より良い医療・介護を目指し関わっていくことが望まれる。本モデル事業では地域医療介護連携のために医師・看護師・理学療法士だけでなく、介護地域包括の職員・ケアマネージャー・介護士にもセミナーにも参加頂き、要介護要支援認定者における慢性疼痛の問題点を提起するとともに運動療法や心理的アプローチを加えた慢性疼痛対策について情報共有する場を提供した。

### 今後の課題

残り2年で本モデル事業が終了することを考慮し、地域における慢性の痛み対策の継続を視野に事業を展開していく必要がある。各都道府県単位での取り組みへの移行準備のため、2年の間に各府県でセミナーを開催し地域行政との連携を図り事業の均てん化につなげる。

令和2年度は、認知行動療研修開発センター、関西痛みの診療研究会、近畿産業衛生学会、職業性筋骨格系障害研究会、各府県の医師会、大阪歯科医師会、各府県行政との共催、後援を受けセミナーを開催してきた。今後さらに関連団体に働きかけ、連携団体を増やして慢性の痛み対策の普及に努める。

本モデル事業は、多職種連携を一つの柱としており、産業医、歯科医師、リハビリ療法士、心理士の参加が多かった。一方、痛みを専門としていない医師をはじめ、薬剤師、看護師、介護支援専門員（ケアマネージャー）の参加は限られている。また、精神科医やリハビリ医、脳神経内科医、免疫内科医など慢性の痛みを持つ患者の診療にかかわる医師の参加も限られており、今後の啓蒙が非常に重要となる。広報の方法を工夫して、慢性の痛み対策に関心を持つ医療者の増加につなげたい。

痛みの原因を明らかにすることが困難で様々な治療で緩和しない痛みを持つ患者は、より良い治療を求めて多数の医療機関を受診する傾向がある。このような痛みに対して画期的な治療法がないのが現実ではあるが、痛みと共に生活することにも視点を移しサポートする体制を整えることが求められる。この目的を果たすためには、医療者への啓蒙だけでは不十分で、地域における

診療ネットワークの情報を一般市民に伝えることも重要である。今後の課題として、モデル事業に中心的な役割を果たしてきた施設が共同で一般市民向けの会合を開き、慢性の痛み対策の診療ネットワークの現状について広報していきたい。

## ■ 参考資料

### 1. 慢性疼痛診療体制

構築する慢性疼痛診療体制に参画した痛みセンター及び連携機関全てについて、下記に記載する。

#### 【痛みセンター】

- ①：(施設名) 滋賀医科大学医学部附属病院  
(診療科名) ペインクリニック科、整形外科、  
リハビリテーション科、心療内科  
(職種名) 医師、看護師、理学療法士、公認心理師、  
臨床心理士
- ②：(施設名) 大阪大学医学部附属病院疼痛医療センター  
(診療科名) 麻酔科、整形外科、リハビリテーション部、  
脳神経外科、神経内科、精神神経科  
(職種名) 医師、理学療法士、作業療法士、  
臨床心理士

#### 【連携機関】(病院)

- ①：(施設名) 関西医科大学附属病院  
(今年度痛みセンターに認定)  
(診療科名) 心療内科、麻酔科、整形外科、  
リハビリテーション科  
(職種名) 医師、公認心理師、臨床心理士
- ②：(施設名) 社会医療法人寿会 富永病院  
(今年度痛みセンターに認定)  
(診療科名) 脳神経内科  
(職種名) 医師、理学療法士、公認心理師
- ③：(施設名) 医療法人篤友会 千里山病院  
(今年度痛みセンターに認定)  
(診療科名) リハビリテーション科、内科  
(職種名) 医師、理学療法士、作業療法士、公認心理師、  
臨床心理士、音楽療法士
- ④：(施設名) 兵庫医科大学附属病院  
(今年度痛みセンターに認定)  
(診療科名) ペインクリニック科  
(職種名) 医師、公認心理師、臨床心理士、理学療法士、  
看護師
- ⑤：(施設名) 京都府立医科大学附属病院  
(今年度痛みセンターに認定)  
(診療科名) 疼痛・緩和ケア科、  
リハビリテーション科、精神科  
(職種名) 医師

- ⑥：(施設名) 川崎医科大学附属病院  
(診療科名) 麻酔科ペインクリニック内科、  
リハビリテーション科  
(職種名) 医師 公認心理師、臨床心理士、  
理学療法士、作業療法士
- ⑦：(施設名) 神戸大学医学部附属病院  
(診療科名) 麻酔科ペインクリニック  
(職種名) 医師、公認心理師、臨床心理士
- ⑧：(施設名) 独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター  
(診療科名) 整形外科、リウマチ・膠原病・アレルギー科、  
泌尿器科  
(職種名) 医師、看護師、薬剤師、公認心理師、  
臨床心理士、理学療法士、作業療法士、  
言語聴覚士、栄養士
- ⑨：(施設名) 市立芦屋病院  
(診療科名) サポートケアチーム(緩和ケア)、  
内科、整形外科、ペインクリニック内科  
(職種名) 医師、薬剤師、看護師、公認心理師、  
臨床心理士、理学療法士、作業療法士
- ⑩：(施設名) 大津赤十字志賀病院  
(診療科名) 整形外科、総合診療科、  
リハビリテーション科  
(職種名) 医師、理学療法士、医療ソーシャルワーカー
- ⑪：(施設名) 大阪大学歯学部附属病院  
(診療科名) 補綴科  
(職種名) 歯科医師
- ⑫：(施設名) 奈良県立医科大学附属病院  
(診療科名) ペインセンター  
(職種名) 医師
- ⑬：(施設名) 和歌山県立医科大学附属病院  
(診療科名) 麻酔科  
(職種名) 医師
- ⑭：(施設名) 福井大学医学部附属病院  
(診療科名) 麻酔科蘇生科  
(職種名) 医師
- ⑮：市立西宮中央病院

(診療科名) ペインクリニック内科

(職種名) 医師

⑩：早石病院

(診療科名) 整形外科、疼痛医療センター

(職種名) 医師、理学療法士

### 【連携機関】(診療所)

#### セミナー企画

- ① 膳所診療所
- ② なかつか整形外科リハビリクリニック
- ③ 田中整形外科
- ④ さかいペインクリニック
- ⑤ さかうえクリニック
- ⑥ てんじん整形外科リウマチ科
- ⑦ のざと診療所

#### セミナー参加2回以上

- ① 山田整形外科病院
- ② シミズクリニック
- ③ かわたペインクリニック
- ④ わだ整形外科クリニック
- ⑤ 医療法人 愛輪会 あい整形外科リハビリクリニック
- ⑥ 寝屋川生野病院 麻酔科
- ⑦ ペインクリニック 芦屋ピッコロ診療所
- ⑧ 井上クリニック
- ⑨ 平成野田クリニック
- ⑩ 西里医院
- ⑪ 淀川若葉会病院
- ⑫ 医療法人桃陰会 いもと整形外科
- ⑬ 琴の浦リハビリテーションセンター
- ⑭ 医療法人 丸岡医院
- ⑮ 医療法人若樹会橋本医院 内科
- ⑯ 原田リウマチ科整形外科
- ⑰ ももたろう痛みのクリニック
- ⑱ 坂部整形外科
- ⑲ 松本医院
- ⑳ 岩本整形外科
- ㉑ もりもと整形外科
- ㉒ 医療法人育祥会須澤クリニック
- ㉓ 医療法人京進会整形外科きょうたにクリニック
- ㉔ 医療法人尽生会聖和病院整形外科
- ㉕ 遠藤クリニック
- ㉖ えびす診療所
- ㉗ 納田整形外科
- ㉘ 医療法人愛晋会中江病院外科
- ㉙ 有田市立病院整形外科

⑳ 琴の浦リハビリテーションセンター附属病院

㉑ 医療法人爽林会ハヤシクリニック

#### 心療内科連携

- ① なにわ生野病院
- ② コーブおおさか病院
- ③ 橋爪医院
- ④ よしえクリニック
- ⑤ 医療法人まちだクリニック
- ⑥ にしだクリニック
- ⑦ 医療法人徳洲会 松原徳洲会病院
- ⑧ 近畿大学病院
- ⑨ わだ整形外科クリニック
- ⑩ 神戸赤十字病院
- ⑪ 医療法人弘正会 西京都病院
- ⑫ 彦根市立病院
- ⑬ 日本赤十字社和歌山医療センター

### 【連携実績】

連携により診察した患者数：延べ 197例

主な連携内容：

- ① 痛みセンター7施設がモデル事業連携施設から紹介を受けた患者総数 70例
- ② モデル事業連携施設が他のモデル事業連携施設に紹介した患者総数 106例
- ③ セミナーに2回以上参加した医療者が所属する医療機関からほかのモデル事業連携施設に紹介された患者総数 14例
- ④ セミナーに2回以上参加した医療者が所属する医療機関がほかのモデル事業連携施設から紹介された患者総数 7例

## 2. 痛み診療コーディネーターの配置

配置する予定の施設：滋賀医科大学医学部附属病院

配置する予定の職種：理学療法士 2名 公認心理師 2名

配置する予定の施設：篤友会千里山病院

配置する予定の職種：公認心理師 1名 理学療法士 1名

配置する予定の施設：関西医科大学附属病院

配置する予定の職種：公認心理師 1名

### 令和2年度 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（近畿地区）連携体制

8つの事業により  
地域・領域ネットワーク  
を構築

#### 1. 産業界

産業界で発生する  
慢性疼痛診療連携事業



#### 2. 開業医

開業医との  
慢性疼痛診療連携事業



#### 3. 心療内科

心療内科による  
慢性疼痛診療連携事業



#### 4. 集学的診療

慢性疼痛に対する  
集学的診療推進事業



#### 5. 頭痛診療

慢性頭痛の診療推進事業



#### 6. インターベンション

インターベンション治療の  
診療連携事業



#### 7. 歯科医療

歯科・口腔外科の  
診療連携事業



#### 8. 地域医療介護連携

デイケア・  
デイサービス等  
での診療連携事業



### 参画施設

#### 集学的痛みセンター

- ・滋賀医科大学医学部附属病院
- ・大阪大学医学部附属病院

#### 連携機関（病院）

- ・関西医科大学附属病院
- ・寿会富永病院
- ・篤友会千里山病院
- ・兵庫医科大学附属病院
- ・京都府立医科大学附属病院
- ・川崎医科大学附属病院
- ・神戸大学医学部附属病院
- ・国立病院機構 南大阪医療センター
- ・市立戸屋病院
- ・大津赤十字志賀病院
- ・大阪大学歯学部附属病院
- ・奈良県立医科大学附属病院
- ・和歌山県立医科大学附属病院
- ・福井大学医学部附属病院
- ・西宮市立中央病院
- ・早石会 早石病院

#### セミナー企画・運営機関

- ・膳所診療所
- ・なかつか整形外科リハビリクリニック
- ・田中整形外科
- ・さかいペインクリニック
- ・さかうえクリニック
- ・てんじん整形外科リウマチ科
- ・のざと診療所

### 3. 研修会の開催

研修会の開催回数：13回

研修会の受講者数：934人

- ①産業医向け研修会： 3時間
- ②一般開業医向け慢性疼痛の診療に関する研修会： 4時間
- ③慢性痛に対する心理的アプローチに関する研修会： 26.5時間
- ④慢性痛に対する集学的診療に関する研修会： 3時間
- ⑤慢性頭痛に関する診療の研修会： 3時間
- ⑥インターベンション治療に関する研修会： 2,3時間
- ⑦歯科領域の慢性疼痛に関する研修会： 3時間
- ⑧地域医療介護連携に関する研修会： 2時間
- ⑨慢性痛の診療一般に関する基礎的研修会： 3時間

開催日(所要時間)	セミナー名	事業名	開催方法	開催形式	備 考
2020.08.22～23	慢性痛に対する認知行動療法 実施者育成研修会		HB	共催	主催：一般社団法人認知行動療 研修開発センター
2020.09.12	第1回開業医・リハビリテーション療法士セミナー	開業医リハ	OL	主催	
2020.10.17	慢性痛集学的診療セミナー	集学的診療	HB	主催	
2020.11.21	産業医慢性痛セミナー	産業界	HB	主催	共催：滋賀県医師会 大阪府医 師会 滋賀県産業医会 大阪府 保険医協会 産業医対策委員会 近畿産業衛生学会 職業性筋 骨格系障害研究会
2020.12.06	歯科医のためのHeadache Academy ～三叉神経・自律神経性頭痛 (TACS) の診かた～	頭痛診療・ 歯科治療	OL	主催	
2020.12.19	第11回関西痛みの診療研究会	心療内科	OL	共催	
2020.12.20	慢性痛に対する認知行動療法 実施者育成研修会		OL	共催	主催：一般社団法人認知行動療 研修開発センター
2021.01.30	地域医療介護連携セミナー	地域医療介護 連携	OL	主催	
2021.02.07	第2回歯科セミナー	頭痛診療・ 歯科治療	OL	主催	
2021.02.13	第2回開業医・リハビリテーション療法士セミナー	開業医リハ	OL	主催	
2021.02.20	心と身体の痛みセミナー「発達障害と痛みー認知特性のある 患者の訴えをどう扱うかー」	心療内科	OL	主催	
2021.02.21	慢性疼痛診療研修会		OL	主催	共催：一般財団法人日本いたみ 財団
2021.02.27	“非専門家に知ってほしいインターベンショナル痛み治療”	インターベン ション	OL	主催	

後 援	参加者数	時間数	医師	歯科医師	看護師	理学療法士	作業療法士	心理士	薬剤師	その他
	67	13.5	16	5	13	12	1	20		
兵庫県医師会、神戸市医師会、 兵庫県、神戸市、 滋賀県慢性疼痛対策推進事業	75	2	33		3	29	2	1		7
和歌山県医師会、和歌山市医師会、 滋賀県、和歌山県、和歌山市	57	3	27	3	4	16		1	3	3
滋賀産業保健総合支援センター、 滋賀県、大阪府	91	3	85	1		3				2
大阪府、大阪市、大阪府歯科医師会、 大阪府医師会、滋賀県	124	3	10	113						1
	39	3.5	31		1	1		6		
	177	7								
大阪府、大阪市、滋賀県、 大阪府医師会	58	2	13	2	6	12	2			23
大阪府、大阪市、大阪府歯科医師会、 滋賀県	95	3	7	76		4				8
大阪府医師会、大阪府、大阪市、 滋賀県	59	2	37	2	2	10	3			5
	57	2.5	24	7	3	6	2	12		3
	23	3	3	3	3	7	2	1	2	2
大阪府、大阪市、滋賀県、 大阪府医師会	28	2.33	23	2	1	1	1			
計	950	49.83	309	214	36	101	13	41	5	54

## 4. 人材養成研修の実施について

当初下記のように施設相互訪問を通して人材養成のための研修の実施を計画していたが、新型コロナウイルスの影響で施設への訪問による研修は実施できなかった。

(当初の計画)

研修対象医療機関数：4ヶ所程度（H31年度の受け入れ可能機関は17か所）

研修対象者数：20人程度（過去3年間の研修者は23名）

(内訳)

医師 5人程度

看護師 5人程度

その他 10人程度

研修は上記研修会とは別に、慢性痛に対する集学的な診療を実施している医療機関を訪問することによって行う。過去に行ってきたのと同様の方法で、見学受け入れ医療機関を募り、HP等にて各施設の受け入れ窓口担当者の連絡先、研修可能な内容を公開する。研修終了後には報告書を提出させHP等にて公開する。スケジュールは特に設けず、訪問受け入れ施設と訪問者の間で日程調整をさせる。

機関数（派遣元の数）：

今年度痛みセンターとして登録している施設2施設（必須）に加え、上記連携医療機関16施設（病院）7施設（セミナー企画）20施設（セミナー参加2回以上）13施設（心療内科連携）計50施設（任意）が対象となる。事業開始後に各施設に対し年度内の施設訪問による研修計画につき調査を行う。

研修の概要：

過去3年間の研修実績を踏まえ、研修先の医療機関を原則8施設の痛みセンターに限定する。まず、

- ① 個々の痛みセンターの診療現場を見て、生物心理社会モデルに基づいた診療の実際を学ぶ。
- ② 個々の痛みセンターの診療内容を理解し、今後の診療連携の構築に生かす。
- ③ 痛みセンター間の交流を深め、痛み医療に関連した情報を共有し意見交換することにより、医療スタッフの動機付け、診療スキルの向上、相互の施設のレベルアップにつなげる。

# 3 研修会開催報告



## ■主催セミナー

### ①「第1回 開業医・リハビリテーション療法士セミナー」

令和2年度 厚生労働省  
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

## 第1回 開業医慢性痛セミナー

参加費  
無料

**2020年9月12日(土) 16:00~18:00**  
 場所:TKP三宮ビジネスセンターカンファレンスルーム3A  
**オンライン中継/会場参加20名限定(予定)**

  
会場アクセス

**タイムスケジュール** 総司会会: 田中 浩一 (田中整形外科 院長)

15:30~ 受付開始

16:00~16:10 ①「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」について  
 福井 聖 (滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科 病院教授)

16:10~16:40 ②開業医における慢性痛診療のシミュレーション  
 —受付から診察・リハビリまで—  
 田中 浩一 (田中整形外科 院長)  
 下 和弘 (神戸学院大学総合リハビリテーション学部 助教)

16:40~17:55 ③シンポジウム ~オンラインワークショップ形式~  
 「慢性痛診療で良くなる患者 難しい患者のみきわめ —それぞれの立場から—」  
 「あなたの現場の困りごと」

パネリスト: 田中 浩一 (田中整形外科 院長)  
 中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)  
 阪上 学 (さかうすクリニック 院長)  
 酒井 雅人 (さかいペインクリニック 院長)  
 史 賢林 (てんじん整形外科リウマチ科 院長)  
 下 和弘 (神戸学院大学総合リハビリテーション学部 助教/理学療法士)  
 壬生 彰 (甲南女子大学看護リハビリテーション学科 助教/理学療法士)  
 安達 友紀 (神戸大学大学院人間発達環境学研究所 助教/公認心理師)

司 会: 三木 健司 (大阪行岡医療大学医療学部 特別教授)

17:55~18:00 ④総括 柴田 政彦 (奈良学園大学保健医療学部 教授)

終了後、オンライン意見交換会を予定しております (詳細は申込フォームに記載)

**お申込み**  
 「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-」  
 ホームページより (<http://painkuu.html.xcnmaib.jp>)  
 または右記QRコード登録フォームよりお願いします。  
 ※代表者様のみ登録とごアサインの必要はございません。ご参加のみに参加してセミナーを開催いたします。

  
申込フォーム

共催: 滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科  
 後援: 兵庫県医師会、神戸市医師会、兵庫県、神戸市 滋賀県慢性疼痛対策推進事業





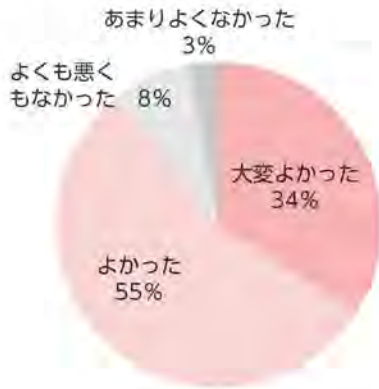
## 第1回 開業医慢性痛セミナー アンケート集計結果

2020年9月12日（土）16：00～18：00（オンライン開催）

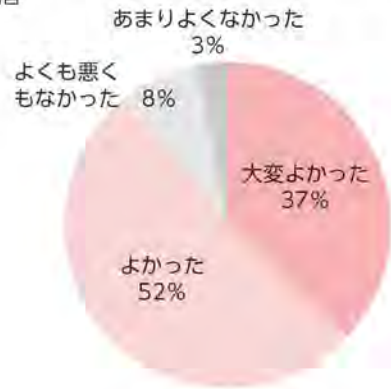
参加者：74名（うち未確認12名）

今回のセミナーの感想をお聞かせください。

〈開業医における慢性痛診療のシミュレーション〉  
38件の回答



〈シンポジウム 慢性痛診療で良くなる患者 難しい患者のみきわめ  
—それぞれの立場から—、あなたの現場の困りごと〉  
38件の回答



### ■本セミナーについてご意見・ご感想

- ・ありがとうございました。大変、参考になりました。
- ・通院できる人は良いのですが、通院すら厳しい患者さんがいます。キーパーソンもなく非常に厳しい対応をされているような症例が聞きたかったです。
- ・疼痛で悩んでいる患者さんへの対応など、ロールプレイでとても分かりやすかったです。今回学んだ事を臨床に活かしていきたいと思います。
- ・慢性疼痛患者に対して診療を行っている医師、療法士の取り組みが聞けて多くのことを学ぶことができました。
- ・視聴者は発言しにくい雰囲気ですね。zoom共通の問題ですが。
- ・シンポジウムにはがっかりしました。
- ・臨床的な話で大変参考になります。
- ・2022年度に整形外科開業をします。勤務医ではなかなか勉強できない内容でとても参考になりました。
- ・田中整形外科様の田中院長はじめ、スタッフの皆様方の患者様への対応がとても勉強になりました。ここまでクリニック全体で取り組んでいるところが驚きました。参考にさせていただきます。
- ・このような機会を頂いた事を感謝します。日頃から悩んでいる慢性疼痛に対してお話を聞けて良かったです。
- ・難治症例の改善した症例の報告がもっと欲しかった。
- ・現場の困りごと、もう少しケーススタディがあるとよかったです。（すみません。時間の関係でブレイクタイムセッション退室させていただきました。ありがとうございました。）
- ・ブレイクアウトセッションの時間がもう少し長いと嬉しいです。
- ・グループディスカッションの時間が少なく、発言ができませんでした。
- ・開業医の先生方の診療が具体的にみれて参考になりました。
- ・大変勉強になりました、気付かされることも多々ありました。
- ・大変勉強になりありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。「開業医における慢性痛診療のシミュレーション—受付から診察・リハビリまで」は途中電話がかかってくる見れなかったので残念です。スタッフの教育というか共有というか、痛みに対する知識と考え方接し方、まだまだよりよくするところがあると思いました。
- ・各病院での取り組みや専門職の視点からの意見を聞かせていただき、とても参考になりました。
- ・自分が担当している慢性痛患者さんについて考え直

す良い機会だったと思います。最後のミーティングが、何をすれば良いのかわからないため考える時間がなく、時間も短かったため、ただ自己紹介の場になってしまっていたのが問題だと思っています。

### ■本セミナーについてのご要望

- ・今後のご案内をお願いします。
- ・今後も是非続けてほしい。
- ・慢性疼痛の治療に対して、一般医家にはまだまだ広がっていないような気がしますが、職場・産業医との連携について、具体的に、産業医と主治医と、お互いに困っていることを共有できる場があればよいと思います。一方通行ですれ違っている感じがします。

### ■その他

- ・開業医ならではの実践的、裏技的な治療法を教えて戴ければなお良かったです。
- ・シンポジウムは開業医の宣伝の場ではないので、実際のアプローチをプレゼンすべきではないでしょうか？
- ・質問にもお答えいただきとても良い時間でした！
- ・医療従事者の見学も受け付けているとおっしゃっていました。是非見学にお伺いしたいですので、手続きなどありましたらご教授願いたいです。
- ・経験から、不安神経症を合併されている患者さんに難治症例が多いような気がします。透析患者が多いのでサインバルタは使えませんが、他の薬が効かなかった症例でSSRIが著効したケースを数例経験しています。機序としては下降抑制系の賦活ではなく、痛みに対する恐怖がたいしたことのない痛みを増強させていることに対する改善効果だと思っています。

- ・非常に参考になり勉強になりました。
- ・多面的な視点で関わることが要求される慢性痛へのアプローチを実例をまじえてわかりやすく、解説いただいていたと思います。ありがとうございました。

- ・多職種でディスカッションできる機会を増やしていただきたいです。
- ・具体的な医療連携の具体例が知りたいです。
- ・理学療法士の運動療法、認知行動療法等のハンズオンセミナーを開催していただきたいです。
- ・次回も勉強させて下さい。

- ・企業の保健師をしております。線維筋痛症など難治性疼痛のご専門で、患者さんたちからは「神」と呼ばれている有名な先生が会社の近くにいます。通院もしやすそうで、仕事との両立にはよいのですが、サプリなどを積極的に活用されているようで、痛みをゼロにすることを期待しすぎてしまうことも懸念され、紹介してよいものかどうか迷っております。
- ・Zoomの双方向の使用に、徐々に慣れていけると思っています。
- ・交通機関での移動途中での参加でしたので、ブレイクアウトセッションの時に部屋に移動し、参加できませんでした…決して、PCつけたまま何処かに行っていたわけではありません…すみませんでした。

② 「慢性痛集学的診療セミナー」

令和2年度 厚生労働省  
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

## 慢性痛集学的診療セミナー

**2020年10月17日(土) 14:00~17:00**

**場所:和歌山県立医科大学図書館棟3階 生涯研修センター/オンライン**  
〒641-8509 和歌山市紀三井寺811番地1 TEL:073-447-2300 (代表)

**14:00~14:10** 和歌山での集学的診療セミナー開催にあたり  
川股 知之  
(和歌山県立医科大学麻酔科学教室 教授)

**14:10~14:20** ①「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業」について  
福井 聖  
(滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科 病院教授)

**14:20~14:50** ②整形外科クリニックにおける慢性疼痛診療  
中塚 映政  
(なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)

**14:50~15:20** ③クリニックの慢性痛リハビリテーション  
鳴尾 彰人  
(篤友会リハビリテーションクリニック 理学療法士)

**休憩**

**15:30~16:00** ④慢性疼痛に対する認知行動療法  
安達 友紀  
(神戸大学大学院人間発達環境学研究所 公認心理師)

**16:00~16:30** ⑤慢性疼痛に対する集学的診療  
高橋 紀代  
(篤友会千里山病院 在宅医療センター センター長)

**16:30~16:50** ⑥総合討論  
川股 知之  
(和歌山県立医科大学麻酔科学教室 教授)

**16:50~17:00** ⑦総括  
柴田 政彦  
(奈良学園大学保健医療学部 教授)

総司会:川股 知之

**お申込み**  
「慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-」ホームページより  
(<http://painkinki.html.xdomain.jp>)  
または右記QRコード受付フォームよりお願いします。

  
受付フォーム

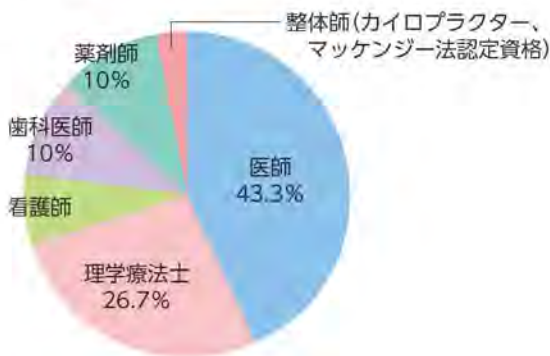
共催:滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科 滋賀県慢性疼痛対策推進事業  
後援:和歌山県医師会、和歌山市医師会、滋賀県、和歌山県、和歌山市



慢性痛集学的診療セミナー アンケート集計結果

2020年10月17日（土）14：00～17：00（ハイブリッド開催）  
参加者：計57名（会場：23名 オンライン：34名）

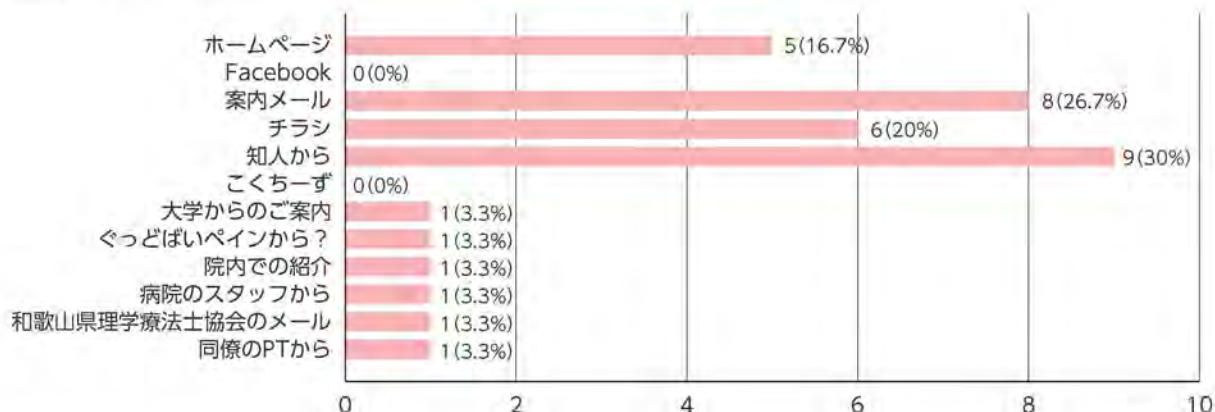
あなたの職種を教えてください。  
30件の回答



今回のセミナーの感想をお聞かせください。  
30件の回答



このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）  
30件の回答



■本セミナーについてご意見・ご感想

- ・ 普段携わらないことを知ることができました。
- ・ 慢性疼痛にリハビリテーションとして関わるには、セラピストに対する環境的な整備も必要であると感じました。
- ・ 音声若干聞き取りにくいですが、ハウリングもありました。ビデオ参加の先生の講義時には聞きやすかったので会場の音声の問題かと思えます。
- ・ 認知行動療法についてよくわかりました。難しいと感じました。
- ・ 多職種の立場からの講演が聞けて、良かった。
- ・ 所用により16時30分で退出させていただきます。本日

はありがとうございました。

- ・ 当方、平日午後はデイサービスに出張に行くので、他施設のやっている事が知れて参考になりました。
- ・ 認知行動療法について理解が深まった。
- ・ 慢性疼痛がある患者さんは、薬物での治療を希望されて多数の薬剤に頼られておられます。薬剤を増やしていくのではなく、日々の運動療法を定着させて薬剤を減量していくことで、患者さんのQOL向上に繋げていけるのではないかとということが、今回の講演で再確認することができました。ありがとうございました。

- ・リハの関わりがわかってよかった。
- ・わかりやすく、目の前の課題のヒントを得ることができました。オンライン非常に良かったです。
- ・多職種、多領域の講師によるご講演を拝聴することができて、良かったです。
- ・慢性疼痛に対して運動療法で実際に治療を行う方法や現状などの意見が聞けて勉強になりました。
- ・セミナーの初めの方では音声が届かなくて、PDF資料で不鮮明な箇所がありました。全体的には

分かり易いお話でした。

- ・集学的なアプローチの重要性は理解できたが、当院で展開していく場合はドクターをはじめ看護や他部門に共通言語として理解してもらわないといけないことも多いと感じた。セミナーを通して、大変勉強になりました。多職種の理学療法士、公認心理士の先生方のご講演は特に勉強になりました。ありがとうございました。

### ■今後どんな企画を希望されますか

- ・慢性痛患者さんの症例提示をしていただき、痛みセンターや連携施設での具体的な治療内容や経過を教えてくださいたいです。
- ・貴重なお話を東北地方でも聞く機会を与えてくださり感謝です。このようなハイブリッド型のセミナーはコロナの流行後も続けていただきたいです。
- ・症例検討（薬物の使い方やリハ、認知行動療法）などをもっと知りたい。
- ・デンマーク等の慢性疼痛治療の最前線を紹介して頂けると嬉しいです。

- ・もう少し具体的な方法についての講義が聞きたい。
- ・薬物減量に至った症例を、どれくらいの期間でどれくらいの量を減量できたのか知りたいです。
- ・入院プログラム、座学の流れ、家族との関わりなど。
- ・①重症な症例。成功症例、困難症例など。②脳の器質的変化。
- ・集合的治療のトラブル事例や難渋した事例の共有。
- ・今後は薬物治療などについて講演いただければと思います。
- ・ケーススタディ。

③ 「産業医慢性痛セミナー」

令和2年度 厚生労働省  
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

参加費  
無料

# 産業医慢性痛セミナー

日時 2020年 11月21日(土) 14:00-17:00

滋賀会場：滋賀医科大学 臨床講義室1 ※滋賀会場よりオンラインで配信  
大阪会場：大阪府保険医協同組合会館 5階 M&Dホール

日本医師会認定産業医制度 生涯研修会・専門 2.5単位 申請中

プログラム

司会 北原 照代 (滋賀医科大学・社会医学講座・衛生学部門 講師)

14:00 開会挨拶 滋賀県産業医会会長 中西一郎

14:05～14:50  
1) 慢性の作業関連性運動器障害に対する集学的治療について  
滋賀医科大学医学部附属病院 学際的痛み治療センター 久郷真人

15:00～15:45  
2) 慢性の作業関連性運動器疼痛に対する漢方治療の実際  
滋賀医科大学医学部附属病院 麻酔科 中西美保

15:55～16:40  
3) 作業関連性運動器障害の予防と職場復帰支援  
大阪社会医学研究所 所長 中村賢治

16:45～17:00  
4) 「令和2年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-」～産業医との連携推進に向けて～  
滋賀医科大学医学部附属病院 病院教授 福井聖

17:00 閉会挨拶



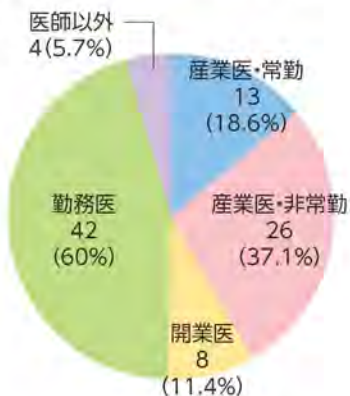
産業医慢性痛セミナー アンケート集計結果

2020年11月21日（土） 14：00～17：00（ハイブリッド開催）

参加者：計91名（滋賀会場：28名 大阪会場：48名 オンライン：15名）

あなたの職種を教えてください。（複数回答可）

70件の回答



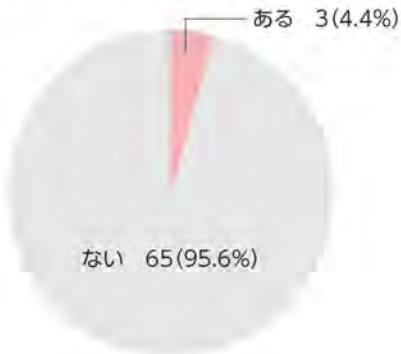
今回のセミナーの感想をお聞かせください。

66件の回答



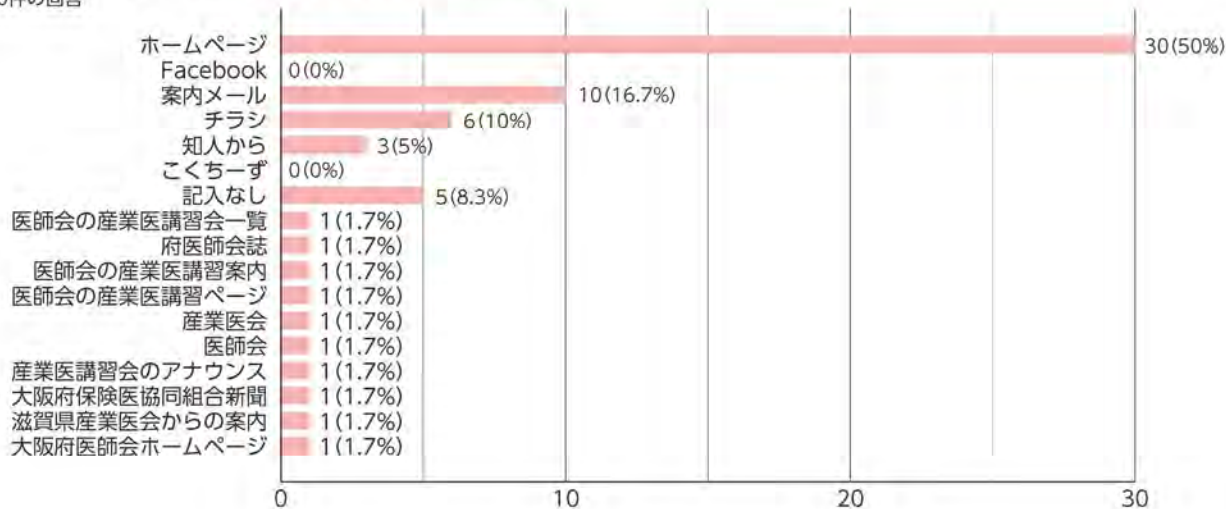
今年度に慢性痛診療に関連し、本モデル事業の協力医療機関と連携されたケースがありましたか？

68件の回答



このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

60件の回答



### ■産業医慢性痛セミナーのよかった点

- ・分かりやすかった。
- ・多角的な視点から、実践的な内容であり、とても参考になりました。
- ・慢性的な痛みに対して様々なアプローチがあることを全ての先生がわかりやすく体系的に実践をもとにお話しいただいた点。
- ・慢性疼痛を実際に診ておられる先生方のお話がきけてよかったです。
- ・漢方セミナーが興味深かった。
- ・具体的な症例提示もあり、わかりやすかった。
- ・『疼痛』の視点から初めて産業医学を学べた。
- ・実際の診療の例を交えながら漢方治療を学べてとてもよかったです。また、疼痛に応じて具体的な運動療法を学べてよかったです。
- ・漢方薬について知ることができた点。
- ・漢方による慢性痛の治療が特に興味深かったです。
- ・産業医としての取り組み方法について、対応の各論について勉強できました。精神的な対応について今日どのように対応するか考えるよいセミナーでした。
- ・疼痛に対する漢方治療の実際は勉強になりました。
- ・総合的に治療していただくことがよくわかった。軽作業でも疲労がたまり、疼痛となることがわかってよかったです。
- ・慢性疼痛に対して多職種の先生の話聞いてよかったです。疼痛とストレスの関連について言及が多く学びになった。
- ・具体例が多く参考になった。講師が色々な立場で視点が違い興味深かった。
- ・作業関連性運動器疼痛に関して、まとめ直すことが出来てよかったです。
- ・総合的なお話から具体例までわかりやすくご説明いただきありがとうございました。新型コロナウイルス対策が必要な中、明るく楽しい雰囲気での研修会だったと思います。献血時の静脈穿刺後に訴える方もおられ、対応の参考になると思い受講させていただきました。慢性疼痛に対する理解が深まりました。
- ・全く分かっていなかったのに、全てが勉強になった。実例をあげて話していただけて理解しやすかった。
- ・講師の先生方、講演がわかりやすかったです。
- ・基礎的な点から各分野のポイントでまとめて教えていただき、自分の中でもまとめるきっかけになりました。
- ・漢方治療のポジショニングがよく理解できました。
- ・原因のわからない痛みに対する総合的な治療をしている痛みセンターがあるということを知った点がとくに有意義でした。
- ・近くに慢性痛の特別な取り組みをしている所があることが分かってよかったです。
- ・いろいろな職種に対応している。
- ・慢性疼痛診療システムの中での理学療法士の役割を知ることができた。
- ・症例、事例報告があることでより具体的などころまで勉強になった。
- ・職種によっては疼痛につながりやすいものも多いので、今後の対応に役立つと思う。
- ・麻酔科の先生が漢方を主に疼痛セミナーをして下さったのは大変よかったです。
- ・慢性疼痛に対して集学的に対処する概念を習得できました。
- ・どの内容も興味深く拝聴しました。
- ・非専門領域の知識を得たこと。
- ・多職種の方々からのご講義をいただき、様々な観点からご教示いただけたこと。
- ・痛みに対する様々なアプローチを学べてよかったです。
- ・慢性疼痛について奥深さを知らされました。
- ・漢方治療の実際。
- ・慢性疼痛と産業医の関わりが必要であると認識できました。
- ・漢方薬の具体的な処方例は分かりよかったです。
- ・多方面からの意見が聴けた。
- ・かなり実践的であった。
- ・漢方薬の使用や予防について知ることができた。
- ・具体的な話がでて理解しやすかった。
- ・実例が有ったこと。
- ・わかりやすかった。
- ・作業場での実例をふまえた講義であったのがよかったです。
- ・漢方を含めた痛みに対する予防治療。
- ・心理社会的要因として職業ストレスへの対応・職場を想定した介入が大切であることがわかった。漢方薬による心理社会的アプローチも有効であることがわかった。
- ・リモート会場であったが、大変見やすかった。



- ・内容はとてもよかったです。次に予定があるのできちんと17時に終了してほしいです。
- ・場所が便利で、午前中の仕事が終わってから参加できたこと。
- ・看護師の娘が去年、手首の痛みをきっかけに全身の痛みで動けなくなり、頭MRI撮ったり専門医受診したり、大変だったのでこのテーマには関心がある。

- ・漢方の使い方。
- ・全般にわかりやすい。
- ・質問の段取りを前もって説明されわかりやすかった。
- ・講演内容がエビデンスに基づき、さらに経験的に裏付けられたもので納得できた。漢方治療の意義がよく理解できた。さまざまな職場の身体負荷について知ることができた。

### ■産業医として慢性の痛みの問題についてのご意見

- ・産業マッサージを一次予防的に関わっています（現在滋賀医大で客員助教している薬剤師です）。慢性の痛みを感じていても受診をためらわれている方に適切に受療勧奨がしたいと考えています。
- ・産業医でないためスキップさせていただきます。が、会社員として正しい知識を現場にお伝えになる産業医の先生の役割は大きいと思いました。ただ現実には健康診断くらいかなという感覚あります。
- ・カウザルギーや労災等で医療機関や会社に対する怒りを持っている方の復職は大変むづかしく、弁護士に相談しているとさらに困難です。痛みで苦しんでいる労働者のためにも、労働者の相談を受けている弁護士からも集学的治療へつなげるようなアプローチも必要ではないかと思います（弁護士にとって利益相反になるかもしれませんが）。
- ・職場環境は容易に変えられないため、疼痛治療も容易に解決しない。
- ・夢ですが痛みを客観視できたら！。
- ・慢性痛としての頸肩腕障害と腰痛は頻度が多いのにも関わらず、とても悩ましい問題です。集学的な治療が進歩する一方で、我々臨床医の勉強不足のギャップが深刻化してきているように感じます。このような企画が特に頸肩腕障害と腰痛にスポットをあてて増加すれば良いと思います。
- ・産業医としての活動は現在していません。外来での症例で、勤務されている会社に産業医の指導が充分行われているか疑問に思う事が多々あります。
- ・慢性痛による仕事効率の低下をいかに防ぐか。
- ・社員さんに滋賀医大の慢性疼痛外来を紹介しようと思う。
- ・職場巡視の際に、改善点を指摘してもなかなか実行にうつせることは少ないこと。
- ・個人の問題としてとらえる側面と、作業環境の整備につなげる集団の問題として考える側面があり、な

- かなか突っ込んだアプローチがしにくい。
- ・労働者のQOLが改善される非常によい取り組みだと思いました。実際には健康診断の事後措置、メンタルヘルス対策などが主となっているので反省させられました。ストレス、痛みを受け止めて改善しようとする姿勢が重要と思いました。
- ・環境改善の難しさ。どの労働、作業でも痛みのないものがあるのだろうか…と思う。自分もある。
- ・予防の取り組み、及び慢性痛に困っている症例の対応がいかに重要かよくわかりました。
- ・慢性の痛みで業務ができず離職してしまった社員がいたのも事実です。今はそういう人達を紹介し、認知行動療法、理学療法教育を総合的に治療してもらえるようになればいいなと思いました。
- ・こだわりの強い（発達障害圏）の患者さんも同様に治療できますか？
- ・3管理5管理に加えてメンタルヘルスが関与する。
- ・今後そういった事例に対応するには多に今回のセミナーで学んだことを参考にさせていただきます。
- ・痛みが長引く要因として、作業環境・姿勢だけでなく、ストレス要因も大きいと感じる。
- ・オルトペディクスの部位・場所、色々な要因により老療するのもよいと思う。重量物の移動、不自然な姿勢も注意。
- ・産業医としての実務未経験の為、控えます。
- ・『100%治るまで復職できないと言われる』とよく聞かれます。雇用者への慢性疼痛の教育も重要と思います。
- ・慢性痛のため休職が長期になる場合もありどのように復職につなげていくべきかが課題となっています。
- ・心因性疼痛の鑑別診断。
- ・今後就業者の高齢化により、運動器疼痛に対する分野は、より就労支援に重要な位置付になるものと考えられます。

- ・今後、積極的にみていきます。
- ・労働条件は会社によって違うので、実際の労働の様子を確認することの重要性を再確認した。
- ・腰椎病（ヘルニア等で）復職可能の判断が難しい場合が多い。
- ・背景が複雑・多様化しており、一筋縄ではいかないと思った。
- ・作業内容の軽減やロボット導入が必要かと思われる。

- ・いかに産業医の立場で応用できるか。
- ・様々なアプローチから、慢性痛の取り組みについて知ることができた。
- ・頻度が高く、毎日の生活に影響を及ぼす。解決すべき重要な問題。
- ・労働者に啓発する。
- ・会社からの評価が下がることを心配して、産業医相談を希望しない社員の方が多いようなので、啓蒙活動は重要だと思う。

### ■今後どんな企画を希望されますか

- ・ヘルスケア関連と慢性疼痛。
- ・未病段階（医療にかかる以前）で一次予防する方法についての助言。
- ・コロナの影響、労働環境に与えた影響評価のはじまり。
- ・集学的治療は大病院が多いので、産業医から直接紹介状を書いてアプローチすることは保険診療上難しいので、産業医からのアプローチをどうするのかについての企画があるとありがたいです。
- ・疼痛をもう少し具体的に『頭痛』とかに分けてもらえる興味をもちやすい。
- ・臨床（一般開業レベル）と研究成果の断絶を埋める勉強会・疼痛（作業関連にとどまらず癌によるものまで含んで）。
- ・ペインクリニックの実際について。
- ・産業医講習 心理的アプローチも産業医として身につけられるようにしたい。痛みに対して複合的な講習も。
- ・初心者なのでこのような座学でまず学びます。
- ・精神ストレスと慢性痛の関連とその予防についての企画を希望します。
- ・実際のケースカンファレンスの内容、医療機関間での連携方法について。今回のような知見が広がるような内容は勉強になりました。

- ・事例報告検討会など産業医の交流の場。
- ・工場見学（大阪はよくやっている）小生も時々見学に行く。専門的な工場が多い。
- ・臨床心理士の役割や実際の職務を多くの医療者に知っていただきたいです。
- ・復職支援の事例解説（成功例、困難例等）。
- ・慢性疼痛に伴う疼痛の対処法、指導内容等について基本的な講義を希望。
- ・線維性筋痛症について。
- ・産業医研修を兼ねたセミナー回数の増加。
- ・デジタル機器の対策。
- ・ストレスチェック後の高ストレス状態の方の職場で引き続き仕事ができる様な事業所の対応の仕方。
- ・精神科領域。
- ・精神疾患について。
- ・慢性の痛みの症状を持っておられる方が多数いるので、対処が必要だと思います。
- ・心のケア。
- ・うつ病の社会復帰。適応障害のリワーク

④「歯科医のためのHeadache Academy～三叉神経・自律神経性頭痛 (TACs) の診かた～」

令和2年度 厚生労働省  
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

## 歯科医のためのHeadache Academy ～三叉神経・自律神経性頭痛 (TACs)の診かた～

**日時** 2020年 **12月6日** 13:00-16:00  
**開催場所**：新大阪丸ビル新館 5階509号室/オンライン  
 大阪市東淀川区東中島1-18-27 丸ビル新館

参加費  
無料

【開会の辞】 富永病院 脳神経内科・頭痛センター 竹島 多賀夫 先生

【講演】

**I TACsとは (病態と分類) 13:00-13:30**  
 座長：富永病院 脳神経内科・頭痛センター 竹島 多賀夫 先生  
 演者：静岡赤十字病院 脳神経内科 今井 昇 先生

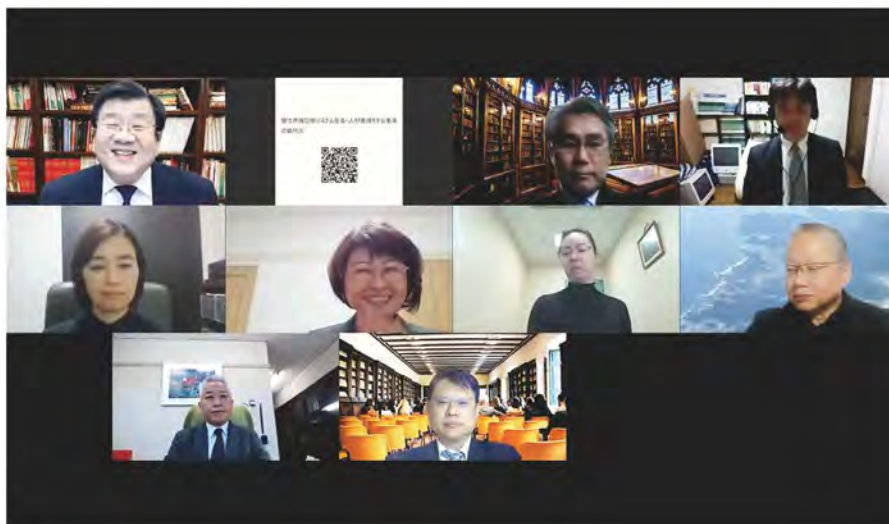
**II 群発頭痛 13:40-14:20**  
 座長：奈良学園大学 保健医療学部 柴田 政彦 先生  
 ① 臨床像と診断 (20分)  
 演者：近畿大学 遺伝子診療部/脳神経内科(兼任) 西郷 和真 先生  
 ② 治療 (20分)  
 演者：西宮市立中央病院麻酔科・ペインクリニック内科・外科 前田 倫 先生

休憩 15分

**III その他のTACs 14:35-15:15**  
 座長：静岡市立清水病院 口腔外科 井川 雅子先生  
 ① 発作性片側頭痛, 持続性片側頭痛 (診断と治療) (20分)  
 演者：偕行会リハビリテーション病院 石崎 公郁子 先生  
 ② SUNHAと三叉神経痛 (鑑別と治療) (20分)  
 演者：富永病院 脳神経内科・頭痛センター 菊井 祥二 先生

**IV Case Presentation 15:25-15:55**  
 座長：大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 石垣 尚一 先生  
 ① 群発頭痛 (10分)  
 演者：富永病院 脳神経内科・頭痛センター 杉山 華子 先生  
 ② 持続性片側頭痛 (10分)  
 演者：偕行会リハビリテーション病院 石崎 公郁子 先生  
 ③ 口腔内灼熱症候群 (10分)  
 演者：大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 石垣 尚一 先生

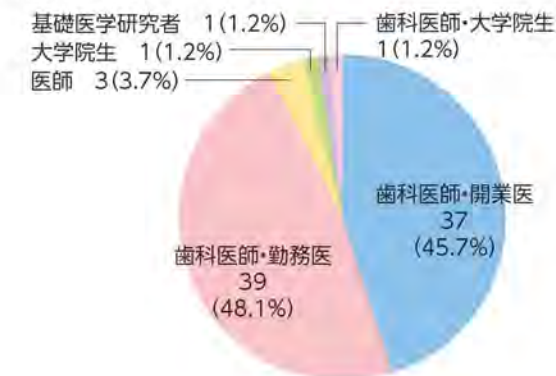
【閉会の辞】 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座 石垣 尚一 先生



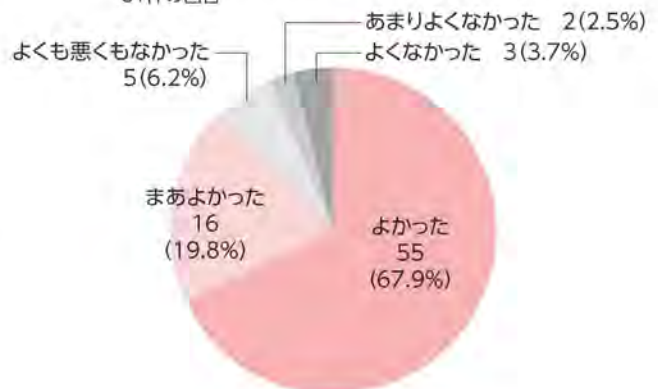
歯科医のためのHeadache Academy～三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）の診かた～ アンケート集計結果

2020年12月6日（日）13:00～16:00（オンライン開催）  
参加者：124名

あなたの職種を教えてください。（複数回答可）  
81件の回答



今回のセミナーの感想をお聞かせください。  
81件の回答



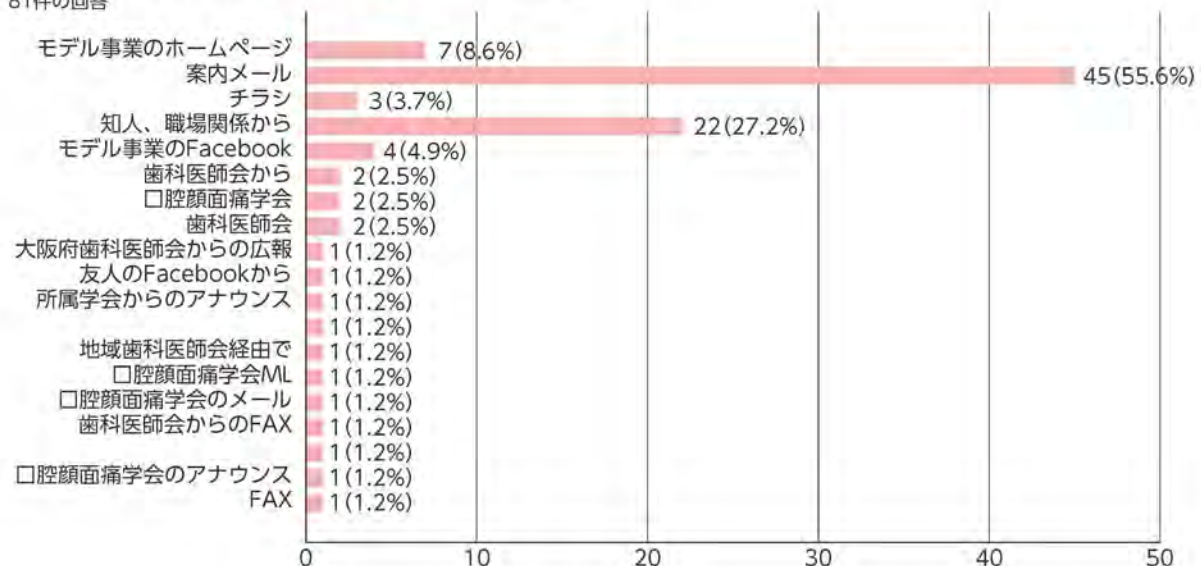
今後、歯科口腔外科領域における慢性痛診療に関連し、本モデル事業の協力医療機関（25施設）との連携にご興味はありますか？

81件の回答



このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数回答可）

81件の回答



### ■本セミナーについてご意見・ご感想

- ・トリプタンだけでなく真の原因療法が知りたい。
- ・病院歯科口腔外科勤務ですが、神経内科やペインクリニックとさらに連携を深めたいと思います。
- ・今まで様子を見ていた症例の一部がTACsに相当するのかな、と思いました。
- ・歯科領域は集学的診療に関連するべきであると考えます。
- ・歯科から紹介しやすい環境があると助かります。
- ・連携、紹介がやりやすい環境が欲しいです。
- ・多職種との連携の難しさを日々痛感しています。
- ・歯科医師に対する教育がもっと必要と思います。
- ・病院勤めでなくても、できることがあるということも学べて幸いです。
- ・歯科口腔外科領域の慢性疼痛は診断、管理において、集学的対応が必要なことがある。地域毎に、協力体制の構築が必要と思っている。
- ・診断の困難なケースに出くわす事が多いので高度専門医療機関との連携がすごく大事だと思います。
- ・慢性痛の診療に歯科口腔外科が参加させてもらえない施設もまだあるかとおもいます。
- ・歯科がどこまでかわるべきか（資格、保険の制限もあり）、もう少し現実的な現場での取り組みをお聞きしたい。
- ・一般開業医に広まることを望みます。
- ・とても分かりやすかったです。
- ・このような研修会を増やしてほしい。
- ・必要不可欠。
- ・慢性疼痛で苦悩している潜在患者は一定数はありますので、ぜひセミナーで幅広く知識をつけさせていただければ幸いです。
- ・非歯原性歯痛のさらなる啓発が必要だと思います。
- ・歯科領域における慢性痛と集学的診療は大切であると考えます。
- ・ぜひ今後も情報発信をしてほしい。
- ・このようなセミナーを増やしてほしい。
- ・慢性疼痛の場合、鑑別が難しいので歯科領域なのか、医科領域なのかの鑑別方法などがあれば知りたいです。
- ・どこで行っているかの周知が必要だと思います。
- ・頭痛専門医の先生との連携を考えたいと思いました。
- ・今後も継続すべき。
- ・歯科医師自身が慢性痛に対してより多く勉強しないとならないと感じた。
- ・まだまだ慢性痛に対して歯科医師の中に周知されていないことが多いと思いますので啓蒙活動をもっと行った方がよいと感じます。
- ・医療連携が必須と思われるので、引き続き研修したいと考えます。
- ・歯痛を訴える患者さんをみてすぐに歯牙のみを見ないで全身を観察し問診をする大切さが再認識できました。有難うございました。
- ・転居等で前医の治療に関する処置についての疑問符多くなっています。
- ・さらなる診療連携が必要と考えます。
- ・口腔顔面痛専門医だけでなくGPの歯科医師にも情報発信できる機会があればと思います。
- ・保険の問題の解決。
- ・中枢性の痛みが慢性痛に関しては存在することを一般開業医に周知頂きたい。
- ・井川先生の講義を肝に銘じております。
- ・薬剤の適応外使用をどこまで許容してもらえるのかについて、いつも悩んでいます。
- ・集学的診療の重要性をますます痛感致しました。
- ・拠点となるような診療体系を全国各地に構築していただけたらと思います。
- ・このような勉強の機会をいただきありがとうございます。ぜひ今後ともこのような機会をいただき、勉強させていただきまして、医科との連携をとって診療にあたっていきたいと思っています。
- ・まだ歯科口腔外科領域で認知されておらず、連携には苦労します。啓蒙活動のほどよろしく願いいたします。
- ・今回は知識的なところがメインだったようにおもいますし、実際の診療も診断が重要と思いますが、歯科と医科で具体的にどのような治療連携をとられているかもう少し具体的に知りたいと思いました。
- ・抜髄等を行ってしまった後の患者さんの紹介を受けることが多いので、この概念が広く普及するとありがたいです。
- ・以前と比較して単純な痛みでないケースが多く、口腔外科を含めて、診断、紹介のし易さは必要だと思います。
- ・慢性痛が診療できる施設と通常の歯科診療所の連携が取りやすい方法確立してほしい。

- ・しかるべき医療機関に紹介できるよう理解を深めたいです。
- ・歯科の適応がない薬剤が多く、困難なことが多い印象です。
- ・TACsの知識を得て、不要な歯科治療を回避したいと思います。
- ・難治性の方が多いので集学的診療が出来る施設の情報が分かれば助かります。
- ・まだまだ広く認知されていない領域なのでこの様なセミナーを広く開催していくことが重要だと思います。
- ・TACsの病態、症状、鑑別診断を理解し、またある意味馴染みが深い三叉神経痛への深い理解も合わせ、誤診のないよう集学的診療が確立されていけるようにしていきたい。
- ・今の所思いつく質問が御座いませんが後日に改めて送信したい場合の送信先をお教え頂ければ助かります。
- ・オーバートリートメントとならないようにすることが重要だ。
- ・勉強不足ですので大変勉強になりました。
- ・セミナー等の継続的な開催を希望します。
- ・患者様の紹介など容易に出来る様、連携しやすく出来ればと思います。
- ・以前に井川先生の講演を聞いて自分だけでは対処出来ない事をしりました。
- ・開業医が「水際」で、ある疾患の疑いを持った場合(今回のテーマではTACs)、次に患者をどこに紹介すべきかが大きな問題です。地域毎に集学的治療を行ってもらえる施設のリストを明示していただけると助かります。
- ・歯科口腔外科領域と限定しない方が良いと思います。
- ・私はまだ勉強の身ですので勉強したいです。
- ・医科やリハビリの先生方と広く拜見できましたら幸いです。
- ・推進すべき。
- ・慢性痛に関しては集学的診療が望ましいと考えられるが、口腔外科外来に行うのは難しいように思われるので、数少ない、医科における集学的診療に歯科医も加わるのが、現実的かと思います。
- ・歯科領域においては、まず疼痛を訴え来院されることとなりますが、その上で、できるだけ早く除痛を患者は望み術者も対応しようとしています。ただその中にそのような処置対応が困難な例に遭遇することもありその時の鑑別力と的確な紹介先が、その時の的確な情報伝達が必要と考えます。そういう観点から集学的診療は重要ではないでしょうか。
- ・痛みは脳の機能の側面からみることも大事だと考えています。
- ・大変重要である。
- ・まずは啓発かと思います。
- ・口腔領域の痛みの原因は時に多岐にわたるため、集学的診療を行うためには医科(神経内科、麻酔科、精神科など)との連携は不可欠である。
- ・歯科医に必要な診断だと思います。
- ・興味を持って聞かせていただきました。
- ・病院勤めでなくても、できることがあるということも学べて幸いです。
- ・一般診療所での診療では歯科口腔領域に限定して狭く考えがちで孤立して思い悩んで解決できないケースが散見されますので集学的診療という俯瞰的にアプローチできる考え方は常に頭の片隅にでも据えておくべきことだとは思いますが、なかなか実行することが難しいことでもありますけれども。

### ■その他

- ・本日はありがとうございました。この様な研修会を企画して下さった関係者の方々には感謝しております。大変勉強になりました。
- ・ケースプレゼンを多くしたほうがいいのかと思いました。次回プログラム期待してます。
- ・具体的な症例のお話も詳しく聞けて、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・富永病院様紹介患者の診察、ありがとうございました。
- ・インドメタシン等を処方されている患者さんの抜歯等を行う場合、そのインドメタシンが創部痛に奏功する可能性はありますか?さらにロキソプロフェンを処方して過剰処方にはなりませんでしょうか?
- ・大変基礎的な質問で申し訳ございませんが、石崎先生のPHとCHのご講演の中で、インドメタシンの効果の指標に、CGRPとNOがあったのですが、このNOが分からなかったのが、教えていただけたら幸いです。宜しく願いいたします。
- ・「歯科医師」の為だけにこのような貴重な学びの場を与えて頂き、深謝いたします。家を離れられない者にとりましては、web開催は大変、助かります。有難うございました。
- ・本日の講演では、頭痛の基本的なことから説明してくださったので、大変わかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・WEBセミナーは本当に助かります。コロナ禍が襲っていてもやはり休日時間は私用（介護など）もあり、移動時間を考えると、もし会場のみでの開催ならば出席はできなかったと思います。コロナ終息後もこのような形で継続を望みます。

⑤ 「地域医療介護連携セミナー」

令和2年度厚生労働省  
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

## 地域医療介護連携セミナー

**日時** 2021年1月30日(土)16:00～18:00

**場所** オンライン(zoom)

**タイムスケジュール**

- 16:00～16:10 ①「慢性疼痛診療体制構築モデル事業」について  
福井 聖 (滋賀医科大学医学部附属病院 病院教授)
- 16:10～16:40 ②在宅医療における慢性痛患者  
岡山 容子 (おかやま在宅クリニック院長)
- 16:40～17:00 ③訪問看護における痛みに対する医療的ケアの実際  
鶴田 満子 (篤友会訪問看護ステーション 看護師)  
高橋 紀代 (篤友会在宅医療センター 医師)
- 17:00～17:20 ④慢性痛を有する訪問リハビリ利用者の現状  
鳴尾 彰人 (篤友会リハビリテーションクリニック 理学療法士)
- 17:20～17:40 ⑤デイケア施設における慢性疼痛対策  
中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)
- 17:40～17:55 ⑥総合討論 司会 中塚 映政
- 17:55～18:00 ⑦総括 柴田 政彦 (奈良学園大学保健医学学部 教授)

**お申込み**

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業  
近畿地区ホームページ  
(<http://painkinki.html.xdomain.jp/>)  
または右記受付フォームより



後援：大阪府、大阪市、滋賀県、大阪府医師会



Zoom meeting interface showing the seminar content and participant list.